

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200328		
法人名	株式会社 結愛サービス公社		
事業所名	一戸町高齢者グループホーム		
所在地	〒028-5312 岩手県二戸郡一戸町一戸字田中72番地1		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JkyosyoCd=0373200328-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、町の中心地に位置しており、地域住民の方々の認知度も高いと考えられております。また、近隣には保健センターや県立病院があり、保健、医療、福祉の福祉ゾーンが形成されており、利用される方やご家族にも、安心して過ごしていただける環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの位置づけの中で、従来の住民の少ない状況から法人内の各事業所等を地域と考え、合同での行事開催や防災対応など協力・連携に積極的に取り組んでいる。「地域交流スペース」があり、地域住民の方々に提供するなど、「外」に向けての発信も行っている。また、運営推進会議員の協力や情報提供のもと、様々な領域のボランティアの方々にも訪れて頂き、(利用者の)楽しみともなっている様子がうかがい知れる。事業所の開設が公設(第三セクター)ということもあり、町との連携には色々な優位性が見られ、密度の濃い関係になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の唱和を毎朝行い、日々その意味を念頭に置き、支援を行っている。実践においては、「住み心地のよい環境づくり、個性を大切に、和を大切に」を事業所の目標として取り組んでいる。	組織(経営理念)のほかに、事業所目標(介護理念)を定め、日々取り組んでいる。利用者本位に努め、安心・安全を前提に職員の共通理解のもと、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣では町内会活動が盛んでないため、自治会への加入等の取り組みは難しいのが現状。しかし、会社全体として夏祭りや敬老会等の催しを企画・開催することで地域住民が参集できる機会を作っている。	従来の住民の少ない状況から法人内の各事業所等を地域と考え合同での行事開催や防災対応など協力・連携に積極的に取り組んでいる。「地域交流スペース」があり、近隣の方に提供するなど、「外」に向けての発信も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や小学生の見学、保育園の慰問やボランティア活動等があり、地域の中に少しずつグループホームの存在が、認知されてきていると感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告やヒヤリハットの報告を積極的に行った結果、民生委員や家族代表からの理解や応援を頂けた。日常生活をまとめたDVDと一緒に見て頂き、意見・感想を頂いている。	事業所からの報告等を中心に進めている。生活の様子をDVDに収めて観て頂くことで普段の状況が分かると好評を得ている。委員の皆さんから一言ずつ発言を求め構成にしており、意見や感想など頂戴している。社協さん(委員)の協力によりボランティアの訪問もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の第3セクターということもあり、行政との関わりについては密接に行われている。介護認定等の更新についてもすぐに対応していただいている。また「夏祭り」についてもご協力いただいている。	事業所の開設が公設(第三セクター)ということもあり、町との連携には色々な優位性が見られ、密度の濃い関係になっている。事業所行事の際に(役所の)駐車場を貸して頂けるほか、手伝いも行っていただけることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアル及び身体拘束排除宣言を作成、掲示し日々の支援に取り組んでいる。	全体研修で身体拘束の内容を実施している。近いところでは「言葉の拘束」について学びを深めている。また身体拘束排除マニュアルが整備され、職員の日常的行動に活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進員による高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。今後も継続して虐待防止の徹底を図っていく。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の福祉センターとの連携が取れているため相談できる体制が取れている。日頃のケアについては、認知症高齢者自身の自尊心を尊重しながら本人自らの意思を表明するよう支援することを心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの時点で施設見学を行うことや、概要を説明している。また、施設利用におけるメリットやリスク、家族への協力依頼等も説明し納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に意見箱を設置したり、直接家族からご意見を頂くよう努めている。家族からのメールでの問い合わせなどにも随時対応している。運営推進会議でのご意見等も反映させて頂いている。	家族からは来訪の際に意見等を聞くように努めている。直接、対話をすることにより、希望に沿った対応に心がけ、誤解等を招かないようにしている。また、利用者のことについても「情報交換ノート」を作り、利用者個々のことを職員間で共有し、ケアの改善等につなげるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社への提言箱(社長取り扱い)を設置している。また、社長との直接面談を行うシステムを設けている。	法人内の全職員に自己評価(100項目+(役職者+50項目))を実施し、その中からも意見や提言の資料となっている。(事業所内の)職員同士の関係性も非常に良いと感じられる。会議時も一人一言の発言の機会に積極的に意見をしており、活発な意見交換が行える環境が見受けられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間、諸手当等については就業規則に則り運営している。また、やりがい等については、事業所目標、個人目標を設定しており、その目標の達成に向け伸張できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の方針として会社内外の研修を組織的に取り組んでいる。社内研修は研修委員会。社外研修は看護・介護部長により計画的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しており、協会が主催する研修や定例会等々へ参加することで、サービスの質の向上に努めている。また、職員交換研修を実施することで、互いの施設の良いところを学ぶことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの際に家族からの事前の情報を収集し、可能な限り本人との面談の機会を設けるようにしている。利用契約をする前にも事前調査を実施するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、契約の際には事前に時間や場所の調整を行い、十分な時間をかけて説明し納得していただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人の状態や家族の状況をよく把握・分析し、当グループホームでの対応が難しい場合は、他事業所や担当ケアマネとの相談も行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしさ」を常に考え、生活の再構築を目的とし、出来る事はやっていた。日常生活の全てが機能訓練になると考え支援を行っている。職員が人生の先輩から学ぶ姿勢で支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や薬取りは可能な限り家族にお願いをしている。また、面会だけでなく、手紙や電話での交流を含め、家族との繋がりが切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	息子や孫の写真を生活の場に取り入れれたり、以前利用していたデイサービス等の馴染みの場所へ散歩に出かけたりしている。	利用者個人ごとのアルバムを作っており、それを活用し思い出してもらおうこととしている。友人が訪ねてきてくれることもある。また同法人の老人ホームの入居している方とご夫婦の方もおり、会えるための支援もしている。お墓参り等はご家族の協力などにより行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や、その時の気持ちを見極め、職員が仲介役となり、利用者同士が良好な関わり合いを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合でも、その家族や利用者から相談を受けたり、助言を求められる場合には協力する姿勢である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の支援を入れ努力している。意思表示が困難な場合は、本人の内的世界を理解しようと努力している。また、家族から本人の生活歴、嗜好なども聞き取る努力をしている。	思いの把握にはセンター方式のシート(一部)を活用している。また「情報共有ノート」を活用し利用者の気持ちを皆で理解できるように努めている。機会がある毎に、家族から利用者の生活歴やかつての日常行動等の話を聞き本人の潜在する思いなど、汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネを中心に毎月2回、ケア会議を開催し、利用者一人一人について話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の出来る事を日常生活の場面から見つけ出し、それが継続できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子や行事などの機会を利用し、本人や家族、関係者からの要望や助言を頂き、ケアプランに反映するよう努めている。	介護計画は本人はもとより、事業所にとっても非常に重要と考えており、計画作成担当者ばかりでなく、(利用者)本人の日々の個別記録の活用や職員間の情報の共有を図り、誰のための計画かを考え、現状にあった内容で立てられ、実践している。(介護計画書等確認)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録(ケアチェック項目)から見えてくる支援をケアプランに活かし、より良い援助が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望で、急な外泊や外出にも対応している。また、敬老会に着物で参加したいとの要望があった時にも、着付けのお手伝いを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番に協力の依頼や情報提供を行っている。また、運営推進会議などを話す機会を設けることで、民生委員や包括支援センターとの協力も取れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先に行っている。また、受診時には「受診者情報提供書」を作成し、病院受診が円滑に出来るよう支援している。	受診時の対応は原則的には家族に対応をお願いしている。病院受診時には、利用者の日常の様子を知らせる内容「受診者情報提供書」を持参し、スムーズな受診が行われている。必要に応じ、看護師の同行も行っている。緊急時には適宜、事業所で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師の訪問が毎日(夕方)あり、利用者の様子を報告し、助言頂いている。緊急時の相談にも応じて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との会議を毎月1回行い、情報交換や意見交換、グループホームの説明などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内において、ターミナルケアに関する勉強会を行った。看護スタッフの協力もある為、出来るだけ本人や家族の希望に添った支援をするよう努力している。	利用者の重度化や看取りの勉強会が行われている。重度化した場合、段階ごとに家族への情報提供や医療、ケア関係者の以降の共有を大事に事業所としての対応力の見極めを進めようとしている。また終末期について事業所としての医療体制の制度的(看護師配置等)な面を課題と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備している。また、社内研修での救急講習(心配蘇生法)にて実践を想定した訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害の災害マニュアルを作成している。また、避難(通報)訓練も日中帯・夜間帯と行っているため、今後も継続していく。	法人内各事業所が隣接する中で災害時の協力体制が期待できるが、事業所独自の対応には災害に備えての物資の備蓄や、「(事業所)独自マニュアル」などを今後の課題と考えている。震災以降、発電機を用意した。	災害時、確実な避難誘導は不可欠で、どの開口部が使えるか、そこは安全にスムーズに脱出可能(事業所内部から外への段差は適当)かなど事業所面の点検は避難誘導訓練の定例的な継承と共に必須条件と考えられ、要改善の場合、即対応していくのが望ましいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成するなどして常にプライバシーには細心の注意を払っている。申し送りや電話対応時にも、注意するように努めている。	プライバシーの確保では、羞恥心対応(排泄時、入浴時の対応等)について特に気を配っている。一人ひとりのお名前の呼び方にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の希望や要望を引き出すよう努めている。また、希望や要望があった場合には、可能な限り達成できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人を中心とした生活、自己選択・自己決定が出来るよう支援している。「個性」を大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や家族からの要望を踏まえて、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。理容・美容に関しても希望に合わせて、店や髪型を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が協力して食事の準備や後片づけを行っている。日常の何気ない会話の中で、何が食べたいか聞き取りながら、メニューを作っている。	食材の下拵え、配膳、後片付け、それぞれの役割をこなし、家庭料理の雰囲気が見られる。利用者全員の間食の為、職員の支援もある。食事の買い物は、利用者も行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については、職員側の声掛けで水分量が確保できるよう支援している。また、食べる量は一人一人に合わせた量を把握し支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭や虫歯、義歯の劣化(不具合)などに気をつけて口腔ケアに努めている。ハイジニスト協力も得ながら努力している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムに合わせて誘導・声掛け等の支援を行っている。排泄の失敗があった場合でも、本人を傷つけないよう言葉掛け等配慮している。	利用者の各居室にトイレ設置など、設備面で恵まれている状況の中で、リハビリパンツから綿パンツ、更に自立に向けた支援が続けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方については、医者や家族と相談して、薬や補助食品等で対応している。また、運動不足解消（機能訓練）の為、朝ラジオ体操を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後としており、希望があれば毎日入浴できる体制をとっている。毎日全員のバイタル測定は行っているが、入浴者については入浴後に再度バイタル測定を実施している。	入浴日時は、本人の希望通りに行われている。入浴後にもバイタルチェックが行われ、利用者の状況にも常に注意を払っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の歌番組やニュースを見る方や早起きして朝食の準備をする方など、就寝・起床時間は個々に応じて支援している。明かりがなければ寝付けない方などにも対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の種類・用法・用量についても、スタッフがすぐに確認できるようまとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自己実現の要求を理解し、会話の中からヒントを得ながら個別的な楽しみや役割、集団でできるもの等を実現できるよう支援している。掃除や食事準備、買い物、畑仕事など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望や買い物の希望があった時は可能な限り対応している。（別棟にあるマッサージ機の使用など）また、お盆やお正月、地域のお祭り等々、出来るだけ希望に添えるよう、職員と家族が理解し協力し合い実施している。	日常的な散歩などの職員対応のほか、家族の理解と協力により、地域（本人の元の居住地）行事や、習慣等（買い物）にも対応している。遠出などの計画も年間を通じて定期的に行われるようになっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しあい、本人が所持する金額を決めている。施設の自動販売機や訪問販売(ヤクルト・パン・理髪等)で使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設内から電話をかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に続く談話コーナーが配置されゆったりとした空間がある。天窓からの採光も良く、全体的に清潔で皆が心地良く集える空間作りが心がけている。床下温水暖房方式で、床下全体を暖め、暖まった空気が吹き出口を通り室内を循環し穏やかな暖房効果が表れるよう工夫している。	共用空間の自然光による全体の明るさが特筆される。調理場と食堂(兼居間)の一体感で、調理状況、匂いなど家での雰囲気を感じられる。窓も大きく、外の様子も見え、季節も感じられる造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で食事が出るようテーブルの位置を工夫したり、共有スペースには出来るだけ日常生活や行事の思い出の写真を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切にしていた物や、使い慣れた物、慣れ親しんだ物を持ち込んでいただき、自由にレイアウトしている。寝床もベッドがよいか、畳に布団が良いか本人の希望を優先に考え、今までの生活スタイルを継続できるように工夫している。	共同生活の中での「我が家」づくりに工夫が見られる。本人がすぐに認識出来る大きな表札、個々の居室に番地をつけていること、また本人の生活習慣や状況を考えた一部畳敷きの居室など、利用者本位の視点が見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、ユニバーサルデザインが活用され、手すりや昇降手洗い場等が設置されている。段差もない為、安全な歩行も可能であり、そのことで本人の役割も増えている。		